

義士の寺へ参詣

12月14日は、赤穂浪士の吉良邸討ち入りの日です。それにちなんで大阪に四十七士のお墓があると聞き、友人の案内でそのお寺へ参詣しました。

ところは、天王寺区六万体町、万松山吉祥寺と言います。

谷町筋を車で通ると東側に白黒の三角模様の壁がすぐ目に入ります。



白黒の三角模様の壁 万松山吉祥寺表門

境内に入ると左手には一般の人の墓地があり、大石内蔵助の石像が建てられていきます。右手に行くと、浅野内匠頭(なまはら)の輪塔を中心、左右に大石内蔵助、大石主税、それを囲むように四十七士のお墓がありました。「ご苦労様でした」とご挨拶し参拝しました。また境内の本堂に近い右手には、

四十七士の討ち入りのときの活躍の姿の石像が作られ、岡野金右衛門、や神崎与五郎などの名前も見えました。



四十七士の像

義士の討ち入りの日というのに境内はひっそりとして、大工さんが二人、何かの修理でしようか仕事をされていました。お寺の住職さんは不在。どなたもおられず、ちよつとお話を伺いたかったのにと残念でした。聞けば

毎年12月の第2日曜日に義士祭があるそうです。友人の話によると昔は市長さんも参加されてにぎやかだったそうです。

私世代には12月と言えば、テレビも映画も必ず忠臣蔵だったのに、昭和は遠くなりけりの感を深くしました。

記・写真・牧戸富美子

石鎚山の霊験

再びあらたかなれ

昔とつた杵柄と自信ありげな女性4人が愛媛県の石鎚山に旅行した。だが如何せん平均年齢80歳弱ともなれば重いリュック担いで修験者の鎖道を登るといわけにはいかない。ロープウェイとリフトを使って中腹まで行き、小一時間紅葉道を散策する程度である。

石鎚山の頂上は四国最高峰1982mで山岳信仰の山として崇められてきた。一く三と試しの四つの鎖場がある。



傘をさしてリフトに乗る

昔は女人禁制でもあったリフトの着く展望台駅、標高1400mに向けてリフトに乗っていると、雨が降ってきて傘をさすやら、風が出て一瞬リフトがとまり、あれ!これは新聞ネタと思いきや20から30秒で動き出したのでほっとした。展望台につくと、霊峰は霧に隠れ

ているが、霊験あらたか、紅葉を愛でながら散策できる天候になった。20分くらい歩くと石鎚神社中宮成就社(じょうじゅしゃ)がある。



石鎚神宮成就社 登山の安全を祈った

50年前、役小角が山頂に登ることが出来ず、一度は諦め、ここで斧を針にするのとひたすら研ぐ白髪の老人に会い、感銘を受け、再び行を続け、開山したという場所。「吾が願い成就せり」の故事にならい、今も参拝者の祈りのお社として、広く崇拝を得ている。昔はここで心を込めて登山の安全を祈ったものだが、今や老後の無事と、家内安全を祈るのみになった

バス旅行の往きに宮島に寄ったが、残念な事に彼の有名な赤い大鳥居は修復中ですつぱりカパーが掛けられていた。それでも日本人も外国人も沢山の観光客がおとずれ、土産物と食事処の通りは

記・写真・上村サト子

希望の光に導かれて

ルミナリエ

12月15日神戸ルミナリエ最終日に行って来ました。第1回は、阪神・淡路大震災後の阪神地区にて「復興神戸に明かりを灯そう」という意図で2009年12月に開催されました。初年度は、和歌山県で開催された世界リゾート博で使用した電飾が倉庫に保管されていたのでそれを使用して行われたとのこと。



目に輝く光の天井と壁掛け “スパッリエーラ”

近年では「神戸の年末の風物詩」として定着している。ルミナリエでは本当に多くのボランティアの方々が、会場内外での募金活動、会場清掃業務・案内や写真撮影等のおもてなし業務、誘導業務など活動し運営しておられました。

記・写真・大岡津奈子